

平成 27 年 度

事 業 報 告 書

社会福祉法人 福 陽 会

特別養護老人ホーム 第3サンシャインビル
短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護（ショートステイ）

事業報告目次

項 目	ページ
事業報告	
1. 事業報告(総括)	1-2
2. 職員構成	2
3. 会議・懇談会・委員会開催状況報告書	3-4
4. 処遇報告	4-7
1) 2F 事業報告・活動報告	
2) 3F 事業報告・活動報告	
3) 4F 事業報告・活動報告	
4) 移動理美容	
5) 日用品費・介護用品費・被服費等事業費報告	
5. 厨房事業報告	7-8
6. 医務室利用者健康管理報告	8-10
7. リハビリテーション報告	11
8. 生活相談員・介護支援専門員	12-13
9. クラブ活動実績報告	13-16
10. 年間行事実施報告	17
11. 事務費・固定資産物品報告	17
12. 事故報告・ヒヤリ・ハット報告	18
13. 職員研修報告	19-20
14. ボランティア・慰問 受け入れ状況報告	21
15. 消防訓練実施結果	22
16. ショートステイ事業報告	22

1. 事業報告（総括）

中長期計画について

社会福祉法人福陽会の理念を職員全員が周知し、実践していくことで、入所者様とご家族に信頼される施設として実績を重ねる努力を続けました。

中期基本方針について

現在実施していることを委員会等で常に検証し、より優れたサービス体制の構築へ向けて、チームケアを進めています。

(1) サービス向上への取り組みの実績としては、介護職のみならず、全職員がアドボケイトとしての力を持てるよう、利用者様とのコミュニケーションを多く図り、サービスにつなげていけるようになっていきます。各委員会についても積極的に意見交換を行い業務の改善と質の高いサービス提供を行う仕組みが定着してきました。

地域との交流と連携の点では地域交流室の活用ができ、地域のサークル活動に利用していただくことで、入所者様との交流やボランティアの増加につなげることができました。施設の知名度も上がってきたことが挙げられます。また 27 年度は新たな地域交流室の活用として日の出包括支援センターと共催で認知症サポーター講座を実施し地域の方々と勉強会を行いました。近隣との交流では日の出幼稚園との交流会を行いました。

災害対策については、高齢者施設災害防止講習会、防災対策支援事業研修会への参加や防災用品の見直し等と施設のBCPの見直しを行いました。今後はそれに沿った訓練の実施を重ねていきます。

(2) 組織強化への取り組みでは、休職者が戻りたくなくなる働きやすい環境への取り組みを行いました。また、介護主任を事務所に配置することにより各部署との連携強化と組織統制を図りました。

(3) 人材育成・確保への取り組みとして、外部研修や内部研修を昨年度より充実させ、人材の育成に努めました。また、子育て中の職員や休職者が働きやすい環境職場環境づくりを行いました。出産後にまた、ここで働きたいという思いを持ってもらうことができました。

(4) 経営基盤充実への取り組みについては、三施設利用者情報交換会等様々な情報を把握できるようにし、特養稼働率の維持とショートステイの稼働率向上に向けた柔軟な受け入れ体制を作ることで実績に結びつきました。

基本目標について

福陽会の基本理念については、毎日の唱和を継続するとともに統括施設長に来園いただき、職員に対し法人設立当時の思いや理念について語っていただくことで福陽会の職員としての意識の向上を図りました。また、新入職者については、統括施設長の書かれた文章から福陽会理念についての説明を行うことで基本理念の浸透につとめた結果、新人であっても理念に共感でき、それを基としてケアを行っていく事ができる者が増えています。

基本方針について

加齢に伴って生ずる心身の変化に起因する疾病等により要介護状態となり、入浴、排泄、食事等の介護、機能訓練並びに看護及び療養上の管理その他の医療を要する方等について、これらの利用者様が尊厳を保持し、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことが出来るよう、施設顧問医師指導の下、各部署連携し、必要な介護サービスを提供し、地域の福祉の増進を図ることを目的として事業を行いました。

(1) 利用者様の健康状態、身体状況を充分考慮に入れ、各部署の職員による情報の提供と連絡、相談を密にし、職員1人1人が利用者様を良く観察し、介助が必要な利用者様が最低限度の援助で快適な生活が送れるための、環境作りに努めました。

(2) 地域社会との交流を深めるため、民生委員やボランティア、地元老人会との交流会を開催し、情報の交換や地域のニーズ及び利用者家族様の動向、希望等を聞き施設運営に反映させました。

(3) 利用者様が施設行事に気軽に参加できるよう、地元ボランティアに協力をお願いし、日常生活に変化と季節感が持てるような施設での雰囲気作り、催し物を工夫し開催しました。

27年度の重点目標について

平成 27 年度の介護保険制度形成に対応すべく、より堅固な体制を整えるよう創意工夫を行いました。高齢福祉の厳しい現状においても安定した経営基盤で、利用者のニーズに合ったより良いサービス提供と良質な人材の確保・安定を図り、今後を見据えた施設運営に努めました。統括施設長の思い（法人理念）である「こころある介護」を職員全員が継承し、一丸となって良質なサービスを提供して行けるように努めました。重度化する利用者様の健康的な生活を維持し QOL を高めるため、施設顧問医師の指導の下、他職種協働にて支援を行いました。

(1) 各ユニットリーダーが中心となって、福陽会の基本理念を具現化するために、ユニット職員一丸となって、その方らしい生活への支援、残存能力を生かした個別ケアに努めました。

(2) 特養への中重度者の重点化に対応できるよう質の高いサービスを提供しました。そのために外部・内部の研修や OJT を活用し人材育成を図りました。

(3) 介護記録システムの活用により、情報の共有や書類の整備を行い効率的な業務改善を図りました。

(4) 入所者の高齢化・重度化による日常生活レベル低下、それに伴う医療ニーズへの対応や事故防止のためのリスクマネジメントを行いました。

(5) ショートステイ稼働率については土・日の入退所やご自宅を訪問しての契約など柔軟に対応し、リピーターから入所希望に結びつけることができました。

(6) 特養入所者様の稼働率については、入院やターミナルケアで退所された方がいらしたが、98.92%を維持することができました。

2. 職 員 構 成 3月31日現在

担当職	職 名	職員	非常勤
施 設 長		1	
顧問医師			1
産業医			1
副施設長		1	
事 務 長		1	
事 務 員		1	2
生活相談員		3(3)	1(1)
介護支援専門員		3(3)	1(1)
介護職員		25	29
医務	医 師		3
	看護主任	1	
	看護職員	4	
機能訓練指導員	機能訓練指導員	1	
	P T		1
	事務		1
厨房	管理栄養士	1	
	調理員	4	6
保守管理・宿直	介助員	1	5

* 兼務職員は主たる職務に記載し、兼務している職務では () 内に記載

人件費実績：308,938,590 円

福利厚生費実績：3,215,514 円

3. 会議・懇談会・委員会開催状況報告書

委員会

それぞれの委員会メンバーが連携をとりながら委員会活動を行った。終日かけて全会議を実施するようにした為、前年度より担当の会議に出席できる職員が増えたが、終日同一メンバーでの会議になって

しまうことが多かった。しかしながら、各委員会での意見交換は前年度より積極的に行われるように

なり、業務改善やケアの質の向上につながっている。

1) 苦情・拘束委員会

苦情や意見については、ご家族様、利用者様から直接相談員への相談が8件あった。言葉づかいやケアについてのものであった。すぐに対応しご理解を頂く事ができた。委員会では、各職員が気付いたことを取り上げて話し合うことで、苦情に繋がらないよう努めた。

2) 行事計画委員会

昨年度の行事内容に加え、「運動会」を新しく取り組みに入れた。利用者の方が主体となり楽しんで頂ける行事が行えた。施設全体で取り組む姿勢が強まり、最大限の成果を上げるよう行事に力を注ぐことが出来た。

年間行事外においても、マジックショー、幼稚園訪問、プレミアムコンサート、コーラス慰問、日の出町桜祭りと地域との交流の場を設けることが出来た。

次年度も一層盛り立て最大限の成果を出すよう他部署連携を図り施設全体で行事に取り組んでいくようにする。年間行事外のイベントにも参加を増やし地域交流の場を設けていく。

3) 虐待防止委員会

接遇マナーへの注意喚起と「虐待の芽チェックリスト」の3か月ごとの実施により、職員が自身への振り返りをできるようにした。今後も研修や定期的な「チェックリスト」の実施と接遇についての注意喚起により、虐待防止を行っていく。

4) 事故防止委員会

事故防止委員会では、安全に配慮し、事故・アクシデントが起きないよう職員一丸となり、事故防止に努めた。

毎月 各担当者がフロアでの事故・アクシデント・ヒヤリハットの件数・時間の集計を行い、表にして提出し会議にて話し合いを行った。また、事例を1件挙げて、状況・原因・対策の評価をし、再発事故防止に向けて話し合いを行った。

各フロアにて発生した事故・アクシデントについての事故再発防止に向け、カンファレンスを行い、パソコン上に内容記録を残す事を取り決めた。また、ヒヤリハットについても書式やファイル使用を検討し変更を行った。

5) 研修委員会

外部研修、内部研修、ユニット単位の研修の年間計画を立て、実施した。外部研修を受けた職員、各部署、各委員会が講師となり研修を行った。今年度、曜日、時間を定め毎月研修を実施する事が出来き、多くの職員が研修に参加出来た。

6) 褥瘡予防委員会

委員会の開催は、計画通りに実施する事ができた。褥瘡形成者やリスクの高い利用者様のリストを提示して対応の検討や統一を図る事ができたと考える。

しかし、委員会開催の1か月を待ってしまうとリアルタイムでの対応が遅れてしまう為、その都度他職種の連携をしっかりと行い即座に対応を検討し、委員会での報告に繋げていく事が必要と考える。その為次年度の実施を目指していく。

7) 感染症委員会

施設内での感染症は1件あったが、蔓延することなく終息した。また、職員の感染症もあったが、施設内での蔓延がなかったため、対応は適切に行えたと考える。しかし、隔離対応の判断が遅れてしまう場面もあった為、次年度は更なる対応の統一に努め早期発見が行えるように研修を実施していく。

施設顧問医師の指示・助言のもと、感染症の情報提供や知識・技術の向上が行えている為、次年度も知識・技術の向上に努めて行く。

8) 職員健康管理

職員健康診断の実施は行えた。また、施設顧問医師の指導のもと今年度新たに施設に入る前に職員の健康状態チェックを施行した。

職員の感染症発症の報告は受けているが、施設内の感染症発症が無かった為状態不良時の連絡経路の把握が出来ており、また、健康チェックにて施設に菌を入れない取組みが実践できたのではないかと考える。

次年度も感染症発症の時期に合わせ、職員健康診断チェックを実施し施設内の感染症発症予防に努める。

9) 排泄委員会

・布パンツの利用開始

あまり失禁がない利用者様は蒸れの防止のため、紙パンツから布パンツへ変更を行った。

・下剤に頼り切らないケア

施設の飲み物を定時で限定することなく、嗜好に合わせた飲み物を提供して水分摂取を促した。ラジオ体操やリハビリ体操を積極的に実施するように働きかけ、寝たきりの方には腹部のマッサージを行った。

・外部による排泄研修の実施

リブドゥコーポレーションを内部研修として誘致し、「オムツの正しい当て方」を勉強した。学んだ事を研修に欠席した職員に指導し、スキルの向上を図った。

・オムツ0運動

オムツを使用していた利用者様をトイレで排泄が出来る様に働きかけた。可能であると予想される利用者様を何名かリストアップし実施した。7名がオムツを外してトイレ誘導に変更することに成功した。

・排泄用品のコスト削減

当施設で排泄用品に掛るコストを計算し、無駄なく必要最低限の発注で賄えるようにコスト削減を行った。

・排泄ケアの回数やタイミングの変更

排泄ケアを定時に限定することなく、回数を増やしたり、個々のタイミングに合わせてたりするなどの工夫を呼びかけ、皮膚トラブルや褥瘡リスクのある方の状態の悪化を防ぐ事に成功した。上記活動を排泄委員が中心となって取り組み、排泄環境の改善を行い、利用者様に快適な生活を送って頂けた。

10) 業務検討委員会

業務に関して、改善点、疑問点を各部署から挙げ、話し合い、検討し、業務の改善に努めた。前年度に比べ、会議を行い、決定していく事で、業務がスムーズに流れるようになった。

11) 栄養会議

・お食事に関するイベントごとの確認や諸連絡の伝達を実施した。

・毎月の体重測定や、採血等の結果についてピックアップし、低栄養のリスクがある利用者様のケアについての話し合いを実施した。

12) リーダー会議

各ユニットでの取り組み、目標を発表し、それぞれがどのような活動をしているか、ユニット内での問題点、改善方法を話し合った。まだユニット内での話し合いが不足しており、会議の内容が手薄だった。ユニット内での話し合いをさらに密に行う事が必要だと課題が見つかった

会議費実績：65,410円

4. 処 遇 報 告

1) 2F 事業報告・活動報告

(1) あやめユニット

季節に合ったレクリエーションを行った。

- ・春には、お花見ドライブ実施。「外は気持ちがいい」「桜がきれい」等の言葉が聞かれた。
- ・夏にはかき氷大会を実施。ユニット内を飾り、縁日風に演出して行った。夏を感じられ喜ばれていた。
- ・秋には買い物・外食を実施。利用者様にご自分で選んで頂き、楽しい時間を過ごせた。
- ・冬にはテラスにてパンジーを植え、土を触り昔を思い出されていた。

(2) さゆりユニット

- ・ショートステイをご利用された方が、また利用したいと思っただけの様、ユニットの環境整備を行った。テーブルなど常に同じ配置ではなくショートステイの方々、個々に合わせてリビング内の整備に努めた。居室に関しても、なるべく在宅の形に近い間取りにして過ごしていただいた。
- ・27年度は職員の入れ替わりもあり、改めて入退所の方法について話し合いを行い改善された点も多くあった。職員が統一した業務を行う事が出来、忘れ物等はほぼなくなっている。今後も職員一同、よいチームワークを保ちながらケアに努めていきたい。

(3) さくらユニット

- ・尊敬、尊厳を重んじることをケアに携わる上で意識し、ケアに積極的に携わる様子が見られている。
- ・個別ケアに関しては、職員各自意識をし積極的に関わりをもち対応しているが、至らぬこと、課題となることがある為、次年度に継続し目標とする。
- ・フロアーレクリエーション、外出レクリエーションの機会をもつことがあまり出来なかった為、生活の活性化に努めて行く。
- ・利用者様に声掛けを行ない、心身の状態の把握に努めることが出来た。状態に変化見られる時は内容に応じ他職種に報告、相談し連携を図るようにした。笑顔で過ごして頂けるよう取り組んだ。

(4) みもぎユニット

- ・職員一同その方の尊厳を重んじ、利用者様に寄り添った支援が行えてきている。日常的に利用者様に対し声掛けの機会を増やし、音楽を聴くことを好む利用者様が多い為、ピアノ演奏や歌を歌う機会を作った結果、利用者様の笑顔を引き出すことが出来た。
- ・今後、音楽以外の余暇活動を多く取り組みに入れ、次年度の余暇活動に取り組んでいく。
- ・積極的に利用者様に寄り添う姿勢が見られ前向きにケアに携わる姿勢が見られている。職員1人ひとりの介護者としての意識がもてるようになっていく。
- ・職員間での情報の共有に力を注ぎ、利用者1人ひとりの状態の把握に努めケアに携わるようにした。対応がまだ不足がちな為、反省を踏まえ次年度の取り組みに力を注いでいく。
- ・ケアに携わる上で専門職であることを再度認識し、職員一同ケアに積極的に携わる姿勢が見られている。まだ至らぬ課題がある為、今後更なるケアの質の向上に努めて行く。
- ・職員1人ひとりが介護知識、技術の向上に努める姿勢が見られるようになっていく。職員同士お互いに良い刺激となるよう意見交換、情報の交換の場を設け、ケアの質の向上に努めていく。次年度に引き続き人材育成に努め、ケアの向上に努めていく。

2) 3F 事業報告・活動報告

(1) すみれユニット

- ・残存機能の維持に努め、生活リハビリや塗り絵、はり絵や写経など利用者様の得意な活動を多く行う事により残存機能の維持及び気分転換を図るように努めた。ラジオ体操や口腔体操は体調などを考慮し、無理の無い範囲で活動して頂いた。ラジオ体操について、毎日継続出来なかったのは、反省点である。今後も持続して行える様見直しを行い、継続出来る様に努めて行く。
- ・どの職員が対応しても差が出ず、利用者様個人に合わせたケアが行える様、連携を密に話し合いを多く持つ事が出来た。また他部署との連携を図る事でより良いケアに努める事が出来た。今後も継続して行って行く。
- ・すみれユニットの利用者様お二人が、最後まで自分らしく、利用者様本位の生活をされ看取りケアを行う事が出来た。今後も他部署との連携を図り、利用者様が安心して生活出来る様努めて行く。

(2) つばきユニット

- ・利用者様の個別ケアの充実を図る為に、日勤業務前に夜勤者を含め利用者様の情報交換に努めた。日勤帯で体操やカラオケなどのレクリエーションの充実を努め利用者様に喜ばれた。
- ・車椅子を自走される利用者様がいらっしゃる為、安全と快適な生活の為にスペースを確保し、障害物を取り除くなど環境整備を行い、利用者様が安全に生活出来た。

(3) つつじユニット

- ・利用者様が毎日お元気で充実した生活を送れるよう、「楽しいレクリエーション」を行うように努めた。
- ・毎日のリハビリ体操を行なうことによって手足の運動ができ、体操の時間を楽しみにされている利用者様も増えた。

- ・季節を感じて頂くために各種パーティーを行い、お菓子を作って食べて頂き大変喜ばれていた。
- ・書道では多くの利用者様に参加して頂き、書くことの楽しさを感じて頂く事が出来た。
- ・終日オムツ使用の利用者様がトイレでの排泄を希望されていた為日々立ち上がり訓練を行った結果、立位が取れるようになり、トイレでの排泄が出来るようになった。また、オムツも外すことが出来た。

- ・職員同士で声掛け、連絡ノートを活用し、利用者様の情報を共有しながら適切なケアが出来た。

(4) あじさいユニット

- ・職員一人一人が入居者様の立場に立ち、入居者様の声を聞き、入居者様一人一人に合った援助を行っていく。という事を目指して一年間取り組んだ。

- ・入浴は、できるだけ多く方に個浴で安全にゆっくり入って頂く事に取り組んだ。個浴で入浴できそうな方、個浴で入浴希望される入居者様を対象に、安全を考慮し、職員2名体制にて個浴にて入浴して頂いた。入居者様より、怖いからやはりチェアー浴の方が良いという声も聞かれたが、個浴でゆっくりお風呂に入れて気持ち良かったという方、チェアー浴から個浴へ移行する事ができた入居者様もあり、喜んで頂けた。個浴に移行された入居者様は、現在、職員一人対応にて安全に、ゆっくり入浴を楽しんで頂いている。

- ・外出レクは、海が見たい入居者様より声が聞かれ、江の島へ外出を行い、入居者様より好評を頂いた。

食事は炊飯を目標に掲げたが、ゆっくり召し上がって頂く事を実践したが、炊飯を実践するまで至らなかった。

3) 4F 事業報告・活動報告

(1) ひまわりユニット

- ・行事やレクでは少人数を対象にし、「江の島ドライブレク」を行った。少し遠方だったので、事前から利用者様の体調管理に注意し、スケジュール調整等しっかり行った。当日は、海鮮丼を召し上がったり、水族館で沢山の種類の魚を鑑賞し楽しそうな表情見られた。

外出が難しかったりレクに参加されない利用者様には、個別でデッキなどに散歩にお連れしたり、共同スペースで歌や体操レクを行った。利用者様も良い気分転換が出来、喜んで頂けた。自立の利用者様が多いので、お料理レクも計画していたが、うまく調整が出来ず実行できなかった。

- ・利用者様の不安や不満・ご自分の意思を伝えられない方々の声が聴けるよう、訪室する時間や話せる場所を作り、安心して生活して頂けるよう、コミュニケーションを多く取った。職員同士でも対話を多く持ち、利用者様1人1人の変化に気付けるよう努め、体調変化や利用者様同士のトラブル等も未然に防ぐことが出来た。

(2) コスモスユニット

- ・援助を必要としながらも、ご自身での生活を楽しまれ、利用者様同士思いやりを持ちながら心地良い空間の中で過ごして頂けるよう努めた。

- ・日常の変化を早く発見するために表情や体の動き・声の調子・食事の様子・皮膚の状態などを注意して観察を行い、職員間・他部署との連携を図り、大きな体調変化もなく、日々穏やかに過され、多くの笑顔が見られた。

- ・利用者様の希望や精神的不安などを傾聴し、出来るだけその方らしく、安心した生活が出来るよう努めた。また、共同空間において、快適に過ごせるよう、利用者様と一緒に話し合いの時間を作り、利用者様同士、毎日楽しく過して頂いた。

- ・秋の紅葉・春の桜ドライブの計画を立てて、ほぼ全員参加する事が出来た。季節を感じ自然にふれる事によって気分転換を図り、利用者様同士の交流を行い、利用者様に喜んで頂いた。

- ・より良いユニット・フロアにするために、常勤ミーティングを開き、職員同士の連絡・情報・意見を交わし、職員一人ひとりが介護技術の質の向上に励んだ。

4) 移動理美容

理美容は月に理容が第2・4月曜日の2回、美容が第1金曜日の1回来ていただいております。利用者様のご希望によって利用していただいております。ご利用者様、そのご家族がどのくらいの頻度で利用されたいか、どのくらいの長さがいいのか等必要に応じて理容師・美容師に代弁して意向をうまく反映できるように努め、実行できた。今後も日常の中での聞き取りや利用者様入所時・ご家族面会時に意向を聞いてうまく伝えられるように努める。

5) 日用品費・介護用品費・被服費等事業費報告

勘定科目	内容	金額	勘定科目	内容	金額
介護用品費	オムツ	9,021,639	日用品費	トイレトペーパー、ティッシュペーパー	305,872
	タオル	26,226		煎茶	172,868
				ポカリスエット粉末	262,960
				その他	589,708
	小計	9,047,865		小計	1,331,408
被服費	寝具設備	3,945,628			
	その他	3,725			
	小計	3,949,353			
			合計	14,328,626	

- 給食費実績：28,524,940円 ○介護用品費実績：9,047,865円 ○医薬品費実績：3,367,339円
 ○日用品費実績：1,331,408円 ○被服費実績：3,949,353円 ○消耗器具備品費実績：633,438円
 ○保健衛生費実績：1,216,252円 ○車輛費実績：430,218円 ○水道光熱費実績：20,581,729円

5. 厨房事業報告

《行事食・麺の日・出前の日・喫茶の日・誕生日会実施内容》

- ・季節の行事食：月1回(正月は三が日)実施。カード装飾や、盛り付けに工夫を凝らした。
- ・麺の日：うどんやそば、ラーメン、冷やし中華やそうめん、スパゲティなども実施した。
- ・出前の日：鰻⇒形態に合わせて刻んで提供した。

寿司⇒原則として米飯の方は握り、粥の方には刺身と粥、極菜・ペーストの方は細かく刻んで提供した。生ものが嫌いな方には、助六での提供も行った。

- ・喫茶の日：毎月第4日曜日に、サクソポランティアの演奏と共にデザートとコーヒーを提供した。デザートは毎回工夫を凝らし、時には利用者様に手伝っていただきデコレーション等も楽しむことが出来た。

4月/3階	モンブラン/モンブランムース	8月/2階	フルーツワッフル	12月/4階	クリスマスケーキデコレーション
5月/2階	ティラミス	9月/4階	ケーキ盛り合わせ	1月/3階	プリンアラモード
6月/4階	ホールケーキデコレーション	10月/3階	苺ワッフル/チョコムース	2月/2階	あんどうナツ水羊羹
7月/3階	フルーツポンチ	11月/2階	パンケーキプリン	3月/4階	コーヒーゼリーサンデー

- ・誕生日会：毎月第3水曜日に実施、誕生月の利用者様に事前に招待状をお渡しし、当日は手作りケーキとコーヒー、歌や演奏等を楽しんでいただくことが出来た。

4月	苺レアチーズケーキ	8月	ラ・フランスレアチーズケーキ	12月	苺クリスマスケーキ
5月	甘夏レアチーズケーキ	9月	甘夏紅茶シフォンレアチーズケーキ	1月	キウイ&甘夏シフォンレアチーズケーキ
6月	チェリーレアチーズケーキ	10月	ラ・フランスレアチーズケーキ	2月	苺レアチーズケーキ
7月	桃レアチーズケーキ	11月	苺のレアチーズケーキ	3月	桃シフォンレアチーズケーキ

《代替食実施状況》

青魚/魚/鶏/納豆/牛乳/青菜/ルー/禁/麺/パンその他	他の料理で対応
丼別盛り、あんかけ別盛り、主食おにぎり	盛り付け時に対応

《給食懇談会・厨房会議・嗜好調査アンケート結果》

- ・毎月各ユニットにて給食懇談会を実施し、食事についての意見・要望や、食べやすさ(形状・硬さ等)についてのご意見をいただいた。
- ・厨房会議を毎月行い、業務の検討や反省・意見交換を行い、意識の統一を図った。また、給食懇談会の内容も報告し、業務改善の参考とした。
- ・7月/1月に嗜好調査を実施し、人気献立をリクエスト献立として提供した。
7月：唐揚げ・天ぷら/天井・カツ丼・寿司/刺身・トマト、1月：天ぷら・肉・寿司/刺身

《衛生管理》

- ・手指の洗浄・消毒や衣服の清潔保持、厨房内の衛生管理を確実に実施した。体調不良時や感染症発生時に備えた連絡経路等のマニュアルや調理過程のチェック体制等の周知も徹底し、安全なお食事を利用者様に提供できる体制づくりに努めた。

《療養食・栄養ケアマネジメント実施状況》

- ・医師の指示のもと、療養食が必要な利用者様に提供を行った。献立や調理を工夫し、なるべく常食と差異を感じずに、おいしくお食事が提供できるよう努めた。
- ・多職種と連携して利用者様ひとりひとりの状態を把握し、適切にスクリーニング、アセスメント、モニタリングを実施することが出来た。低体重の利用者様数は、引き続き前年度と比べ改善がみられた。

《給食懇談会・厨房会議・嗜好調査アンケート結果》

- ・毎月各ユニットにて給食懇談会を実施し、食事についての意見・要望や、食べやすさ(形状・硬さ等)についてのご意見をいただいた。
- ・厨房会議を毎月行い、業務の検討や反省・意見交換を行い、意識の統一を図った。また、給食懇談会の内容も報告し、業務改善の参考とした。
- ・7月/1月に嗜好調査を実施し、人気献立をリクエスト献立として提供した。
7月：唐揚げ・天ぷら/天井・カツ丼・寿司/刺身・トマト、1月：天ぷら・肉・寿司/刺身

《衛生管理》

- ・手指の洗浄・消毒や衣服の清潔保持、厨房内の衛生管理を確実に実施した。体調不良時や感染症発生時に備えた連絡経路等のマニュアルや調理過程のチェック体制等の周知も徹底し、安全なお食事を利用者様に提供できる体制づくりに努めた。

《療養食・栄養ケアマネジメント実施状況》

- ・医師の指示のもと、療養食が必要な利用者様に提供を行った。献立や調理を工夫し、なるべく常食と差異を感じずに、おいしくお食事が提供できるよう努めた。
- ・多職種と連携して利用者様ひとりひとりの状態を把握し、適切にスクリーニング、アセスメント、モニタリングを実施することが出来た。低体重の利用者様数は、引き続き前年度と比べ改善がみられた。

6. 医務室利用者健康管理報告

【年間目標】

- (1) 利用者様の、身体的・精神的変化に注意観察し、異常の早期発見に努め一人一人がその人らしい生活を維持できるように努める。

実践方法と内容

- ① 必要に応じて観察(体温・脈拍・呼吸・血圧・Spo2等の測定)を行い異常の早期発見に努める。
又、新入所時・退院時などの状況変化時も定期的に観察を行い状態観察に努める。
- ② 年一回、利用者健康診断(胸部レントゲン・血液検査・尿検査・心電図)を施行し、状態観察に努める。また、必要時に医師の指示のもと随時血液検査など必要な検査を行い身体状況の把握に努める。
- ③ 他職種との連携を図り、利用者様一人一人がその人らしい生活を維持できるよう変化に注意観察し異常の早期発見に努める。

- ④ 高齢者の身体的・精神的変化を理解し、起こりやすい障害や疾病の悪化を未然に防げるよう観察早期発見に努める。
- ⑤ 身体状況の悪化がみられる際は、速やかに医師への報告を行い、必要時は医療機関へ受診対応を行う。
- ⑥ 夜間帯の医務不在時は介護職員との連携を図る為、オンコール対応を行い異常の早期発見・迅速な対応に努める。
- ⑦ 利用者・家族のニーズを把握し、他職種との連携を図りその人らしい生活が維持できるような看護援助の提供に努める。
- ⑧ 日々の援助や身体的対応など統一して観察・援助が行なえるように、看護面での知識向上に努める。

年間目標（1）を実践方法と内容を踏まえ対応し、実施項目に対しては実践できたと考える。各ユニットにて担当ナースを配置し責任を持って観察・看護援助を行うように勤務内容が変更になった為、次年度は医務室内での連絡・報告・相談を密にとり利用者一人一人の状態を把握しより良い統一した看護援助が行なえるように連携を図っていく。

- (2) 安らかな終末期を迎えられるような援助に努める。

実践内容と方法

- ① 苦痛の緩和に努める
- ② 精神的な安定を図る
- ③ 定期的なバイタルサインを実施し、医師との連携を図り家族に情報提供を行う。
- ④ 他職種との連携を図り、食事・水分・排泄・睡眠等の管理を行う。

年間目標（2）に対し、日々バイタルサイン測定を行ない状態の把握を行うと共に、コミュニケーションを図り精神的緩和に努められていると考える。日常生活援助に対しては終末期に対する観察項目や援助内容について他職種に対しても助言し、より良い終末期援助が実践出来るように次年度活動をしていく。

- (3) 感染症発症の予防、蔓延防止のための指導・活動を行っていく。

実践方法と内容

- ① 職員の感染症予防に対する知識向上をはかるために、感染症委員会と連携し適宜研修・指導を行い、率先して活動に努める。
- ② 一処置・一手洗いを徹底し、2次感染の予防に努める。
- ③ 他職種との連携を図り、食事・水分摂取状況を把握し個々に合わせた対応を検討し、摂取できる環境を整え免疫力の維持・向上に努める。
- ④ 換気・湿度調整に留意し、環境整備を行うことで感染症発症の兆候の早期発見に努める。
- ⑤ 医師との連携を図り、簡易キットを使用し感染症の有無の判定を早期に行い適切な対応を速やかに開始できるように努める。
- ⑥ 感染症発症時は、状況を把握し速やかに対応を実施する。又、他職種へ情報提供し連携を図る。

年間目標（3）に対し、感染症への知識向上については月に一回施設顧問医師からの指導があり、また、年に2回の感染症研修をナースが実施した事から率先した活動が行なえていると考える。今後も医務室内での知識の向上と他職種に向けての研修・指導を行い施設単位の感染症の知識向上に向け活動を行っていく。感染症の蔓延が無かった事を考えると適正な対応や援助が行なえていたと考える為、次年度も感染症蔓延の予防に努めていく。

- (4) 褥瘡予防に努め、他職種への指導・実施を行っていく。

実践方法と内容

- ① 入職時や3ヶ月に一度褥瘡アセスメント表を作成し、リスクを把握し早期に援助内容を検討する事で、褥瘡予防に努める。又、褥瘡ハイリスク者に対し個別の計画表を作成し他職種との

連携を図る。

- ② 職員の褥瘡予防に対する知識向上を図るため、適宜 研修・指導を行う。
- ③ 加齢による身体的変化への知識向上に努め、バリア機能維持に対する取り組みをする。

年間目標 (4) に対し、褥瘡対応者や高リスク者に対する情報提供は行っていたと考えるが、再発防止に繋がっていない部分がみえてきている為、次年度は情報提供と共に再発防止に向けての取り組みが持続的実践に繋がるように他職種連携を図り実践していく。

また、加齢による身体的変化についての知識向上に次年度も観察や助言を行い予防に対する取り組みが行なえるようにしていく。

通院・入退院歴

月	通院	入院	退院
4月	2名	4名	0名
5月	3名	0名	2名
6月	19名	0名	1名
7月	14名	0名	0名
8月	9名	2名	1名
9月	13名	0名	1名
10月	8名	2名	2名
11月	14名	1名	0名
12月	11名	1名	1名
1月	9名	0名	1名
2月	7名	0名	0名
3月	5名	0名	0名
合計	年間通院者数 114名	年間入院者数 10名	年間退院者数 9名

3月31日現在の医療ケア介入必要者

胃瘻からの経管栄養実施者	6名
点滴施行者数	1名
血糖測定者数	0名
在宅酸素使用者数	0名
常時、口腔・鼻腔内からの喀痰吸引が必要となる利用者数	2名
褥瘡処置施行者数	5名
褥瘡以外の皮膚処置施行者数	18名
ターミナルケア対応者	8名
合計	40名

平成27年度死亡退所者

入院先の病院での死亡	1名
施設内での死亡	2名
施設内ターミナル対応にて死亡された方	10名
合計	13名

7. リハビリテーション報告

(1) 総括

平成 27 年度リハビリテーションにおいては、安全で無理のない訓練の施行と妥当性のある個別機能訓練計画の策定に重点を置いた。利用者の既往歴・現病歴の把握、事前のバイタルチェック、他職種との情報共有などにより、安全性を確保した。また、医師、理学療法士の指導の下、利用者の心身の状態、施設での生活におけるニーズなどを考慮し、個別的で実効性のある訓練計画の策定を目指した。

(2) 実施事項

- ① 理学療法士による評価・プログラム作成
- ② 関節可動域訓練
- ③ 本動作訓練
- ④ 力訓練
- ⑤ 熱療法
- ⑥ 体位交換等ワーカーへの指導

(3) 結果

- ・関節可動域の維持・拡大
- ・基本動作能力の維持・向上
- ・疼痛の軽減

対象者の 8 割近い利用者様に機能の維持・拡大という結果が得られた。また、この結果とともに、リハビリテーションの過程においても大きな成果が得られた。信頼関係の構築と適切なコミュニケーションにより、法人理念に掲げられる利用者様の「個性の尊重」「希望と生き甲斐」に繋げることができた。利用者様の前向きな発言や笑顔、頑張る姿が多く見聞きされるようになった。

以下に機能の著明な改善を見た事例について紹介する。

・歩行が可能になった事例

脳幹梗塞により右上下肢に麻痺が残存してしまった。入所時点では立ち上がりも困難であったがご本人のやる気は十分であった。当初自主トレの形で筋力増強を図った。ご本人の「もう一度歩く」の強い意志があり順調に筋力回復が見られた。立ち上がりから立位における足踏みを経て手すり支持にて歩行が可能になった。現在では歩行状態も安定してきている。今後は杖歩行も可能になるよう鋭意訓練継続中である。

・食事摂取が改善されてきた例

パーキンソン様症候群により強い筋緊張と不随意運動が著明なご利用者様がいます。食事は全介助にて摂取されている。介助時に声掛けに反応が見られなかったが、根気よく声掛けを行いながら下顎を押し下げる動作を続けていった結果、声掛けに反応し徐々に開口動作が見られるようになった。今後は咀嚼嚥下運動の向上を図っていきたい。

(4) 課題

リハビリテーションにおける著明な効果はご本人の「やる気」に担う部分が大きいものである。「やる気」という強い意志を持てる利用者様は決して多く存在はしない。しかし、介入等コミュニケーションの構築により、利用者様が積極的に身体を動かしたくなる環境は作れると思われる。この環境作りをしっかりと行いたい。

また、リハビリテーションとは特別な訓練のみを指すものではなく、生活活動すべてに付随できるものである。さらに、リハビリテーションは身体機能の改善のみを目指すだけではなく、個性を尊重したより良い生活 (QOL 向上) を目指すものでもある。このような広い枠組みでリハビリテーションを捉え展開していくこと、つまり、「生活の中でのリハビリ＝生活リハ」の充実が今後の課題である。

さらには、ワーカーに対して体位交換やポジショニング、シーティング等の指導を行い利用者様に安楽な姿勢が保持出来るようにする。安楽な姿勢により体圧の除圧をし褥瘡の予防を図りたい。

1、利用者様支援、多職種連携の調整役

福陽会の基本理念である「人がその人らしく生活できる環境づくり」を常に考えながら、各階に相談員を配置して、日頃から利用者様へのご様子や状態確認の声掛けや観察を行い、介護現場職員をはじめ、医務・リハビリ・栄養等各部署、またご家族からも利用者様の情報を集めて、またそれを各部署へ発信し、お一人おひとり利用者様の環境を整えていくよう努めた。生活相談員がユニット内を回り、利用者様への声掛けや職員から情報をもらい利用者様のご様子を確認して、ご本人のニーズを把握する。その情報を多職種でアプローチできるように調整を行い、解決できるよう支援を行った。また、利用者懇談会を適宜実施して、利用者様の生活への良い点や悩みや要望等の意見を聞く機会を設けた。開設から4年目を迎えて徐々に各部署の情報の共有の流れや形ができてきたため、今年度も生活相談員が調整役となり、情報の伝達・共有をうまく行い、利用者様へのチームケアができるように心がけていく。また、昨年度より、医療面でのご利用者様の状態に関する連絡は医務より行っており、職種間でより多くの連携の必要性を感じた。昨年度途中より介護主任も、全体まとめ役として、設置しており、現場との連携が前より取りやすくなってきている。今後も多職種間で細かい連携を行っていく。

2、ご家族、施設間調整

施設と利用者様ご家族との橋渡し役として利用者様のご様子を都度お伝えし、ご家族との関係調整役として動いたことで、それぞれのご家族より安心して利用者様を任せていただいた。また、信頼関係も築けており施設行事に参加してくださるご家族や、ご本人の状態変化時等には面会に来てくださり、病院等への付き添いにも行ってくださるご家族様が大多数おり、ご家族様と協力してご本人の生活を支援できた。今後もご家族への連絡等しっかり行い、安心していただけるよう努めていく。昨年度より、医療面でのご家族への連絡は医務より行う体制をとっているため、今後も細かく連携を行っていく。

3、利用者様の入所前、入所時の支援について

入所を希望する方がいらした時に、その方が当施設が提供するサービスを本当に必要としている方なのかどうか、まずその人のニーズは何かを見極めて情報提供を行った。また、利用者様入所時にはご本人、ご家族より聞き取りを行い、これまでの生活歴、趣味、嗜好等々ご本人の情報を収集して各部署へ共有してケアができるようにした。

利用者様が施設へ入所する前の事前面接を近隣の場合は徐々に行うことができおり、今後は相談員、看護師のみならず、現場介護士も同行できるようにしていきたい。

4、介護職員へのスーパーバイズについて

各ユニットリーダーの現場指導とは別に各フロアの相談員が職員のスーパーバイザーとなり、フロアをラウンドする際等に利用者様に対するケアや対人への態度等の確認を行い、指導、評価を行った。職員の職場環境の変化や日頃の様子等にも目を向けて、ストレスやメンタルの面での職員の相談役としても担っていった。

① 入所時面接について

入所時に面接を行い生活環境を聞き取り把握することで、リロケーションダメージを最小限に抑え、施設での生活に移行できるように、支援を続けた。24時間シート作成も継続して行い、注意点などを指摘し、他職種に発信して情報を共有出来るように努め、新規ご利用者様の支援をしていった。

入所時に把握しきれない事もあるため、入所後も継続して情報収集を行い、その人にあった支援を出来るように努めた。

② ケアプラン作成について

聞き取りを行った情報を元に、施設サービス計画書を暫定に作成し、ご家族・ご本人に説明・同意をしていただいた。そして1か月後に初回カンファレンスを開催し、その人らしい生活を送ることが出来るよう、新規プランを作成した。

またADLの変化が著明に表れた時には、緊急カンファレンスを開催し、状態に応じたプラン

を作成すると共に支援できるように努めた。

新規プランに関しては、ADLに変化がなかった場合には3か月、更新に関しては6か月と設定。ADLに変化があった場合には期間は3か月とするも、その都度様子を観察し作成した。ターミナルケアに入った方に関しては今まで1か月に1度の計画書作成を行い、状況把握に努めが、9月より状態に変化がない場合には3か月に1度の見直しを行い、計画書を作成することになった。

③ モニタリングについて

1か月ごとに支援経過としてモニタリングを行い状態を把握していた。介護士にはちょうじゅの中にある支援経過に記入を依頼し、また介護支援専門員は手書きにてモニタリング用紙に記載した。9月よりちょうじゅの方に相談員のモニタリングの様式をつくり、9月以降はちょうじゅに記入するようになった。

モニタリング用紙には1・2・4・5か月に関しては大きくまとめて記入し、3か月・6か月は項目に合わせて観察事項を記入して、継続するか変更するかの資料とした。

またターミナルケアの方については、1か月ごとのモニタリングを行い、より細かに観察を行っていたが、モニタリングとサービス担当者会議の要点をまとめた用紙に記入するようになった。

④ ケース会議について

毎月第1・第3火曜日の午前中に開催予定とし、場合によっては第2・第4火曜日にも開催した。職種間調整が難しい場合には、介護支援専門員による聞き取りを行ったが、基本的には調整をして、ケース会議を開催。職種間の情報共有にて、利用者様の状況を把握。プラン作成に繋げた。またケース会議のコーディネート・進行して、各職種の専門性を尊重するようにまとめるよう努めた。

今後のケース会議は第1火曜日は2階、第2水曜日は3階、第3火曜日には4階と分け、各部署に対し書類の締め切り日をしっかりと伝え、情報を共有していくように努めて行きたい。

⑤ 介護職員へのスーパービジョンの展開

施設サービス計画書についての内部研修や、モニタリング時に介護職員に対し、施設サービス計画書の必要性についてスーパービジョンを展開した。記録の書き方や観察の注意点などを都度介護職員に話をし、利用者のニーズに沿えるように注意を払っていった。

今後も引き続きスーパービジョンの展開を図り、意識を向上していくよう努めて行きたい。

9. クラブ活動実績報告

① クラブ活動について

出来るだけ多くの方に参加していただけるよう声掛けに努め、楽しいひと時を過ごしていただけたと思う。

趣味・嗜好を継続して行えるよう様々な状況を考慮し、利用者の希望に出来るだけ添うよう努めた。

又、ご自身の得意とする力を発揮していただき、自信を持って積極的に参加していただけるよう支援した。参加してみたいと興味を持った活動には参加していただき、新たな楽しみを感じていただけるよう努めた。クラブ活動に参加することで、季節や環境の変化を感じ、他者との交流を図りながら楽しい時間を過ごしていただけるよう努めた。

継続してクラブ活動に参加されている方は、活動日が楽しみと言われ、ほぼ満足していただけたように思う。

②クラブ活動名と講師名

クラブ名	講師名
華道	根守 和子先生
茶道	片岡 明美先生・お弟子様2名
書道	石井 亮子先生
手芸	福田先生 他2名
陶芸	岡部 貴久子先生 他2名
音楽	澤田 康次先生
童謡	谷津 恵理子先生

華道クラブ活動報告						
活動回数	21回	参加延人数	325名	平均参加人数	15名	担当：井上
【活動報告】						
1. 第2・第4金曜日に活動						
2. 季節ごとに咲く花を楽しみながら季節感を感じていただけた。						
3. 活動を通して利用者間での助け合いや、他の方の生けた作品を見ながら交流をもつことが出来た。又、先生にご指導いただきながらコミュニケーションを図る事が出来た。						
【月別活動報告】						
月	内容		月	内容		
4月	季節の花を生ける		10月	季節の花・施設の文化祭用の作品		
5月	〃		11月	地域の文化祭に出品		
6月	〃		12月	クリスマス・お正月用の作品		
7月	〃		1月	季節の花を生ける		
8月	〃		2月	〃		
9月	〃		3月	〃		
職員担当フロアー：3F東						

茶道クラブ活動報告						
活動回数	23回	参加延人数	259名	平均参加人数	11名	担当：柴田
【活動報告】						
1. 第2・第4水曜日に活動						
2. 先生のご指導のもと、参加者がお手前をし、お抹茶の味と、香りを楽しんでいただけた。						
3. お茶と季節感のある和菓子をいただきながら、和やかで穏やかな時間を過ごしていただく事が出来た。						
【月別活動報告】						
月	内容		月	内容		
4月	先生のご指導のもとお手前をする		10月	先生のご指導のもとお手前をする		
5月	〃		11月	〃		
6月	〃		12月	〃		
7月	〃		1月	〃		
8月	〃		2月	〃		
9月	〃		3月	〃		
職員担当フロアー：2F東						

書道クラブ活動報告						
活動回数	24回	参加延人数	294名	平均参加人数	12名	担当：清水
【活動報告】						
1. 第1・第3土曜日に活動						
2. 清書をした作品を参加者にみていただき、前回の清書した作品との講評を行いました。徐々に上達される喜びと、励ましの言葉を掛け合いながら交流を図ることが出来た。						
3. 施設と地域の文化祭に出品し外部の方に見ていただく事で、今後の喜びと励みになった。						
【月別活動報告】						
月	内容		月	内容		
4月	お手本をもとに練習・清書		10月	施設・地域の文化祭の作品練習		
5月	〃		11月	生まれた月に関する言葉		
6月	〃		12月	〃		
7月	〃		1月	〃		
8月	〃		2月	半分の用紙で名前を書く		
9月	〃		3月	お手本をもとに練習・清書		
職員担当フロアー：4F						
手芸クラブ活動報告						
活動回数	7回	参加延人数	131名	平均参加人数	18名	担当：井上
【活動報告】						
1. 第3木曜日に活動						
2. 身近にある牛乳パック・空き瓶・ビーズ・布等を使い、置物や飾り物等、個性豊かな作品作りを楽しんでいただけた。						
3. 参加者と交流を取りながら、季節感を感じていただき、手作り作品の完成に満足感を感じる事が出来た。						
【月別活動報告】						
月	内容		月	内容		
4月	活動なし		10月	クリスマスバージョン作り		
5月	フェルトを使った 人形の飾り物		11月	鳩の貼り絵		
6月	フェルトを使った 小物入れ		12月	クリスマスオーナメント壁掛け		
7月	布を巻いたハンガー作り		1月	活動なし		
8月	活動なし		2月	折り紙で作った お雛様		
9月	活動なし		3月	活動なし		
職員担当フロアー：4F						

陶芸クラブ活動報告						
活動回数	7回	参加延人数	127名	平均参加人数	18名	担当：中嶋
【活動報告】						
1・不定期 1回/月						
2・粘土に触れ土の感触を感じながら、個性豊かな作品を作成することが出来た。						
3・参加者と交流を取りながら、手作り作品の完成に満足感を感じる事が出来た。						
【月別活動報告】						
月	内容		月	内容		
4月	活動なし		10月	ランプシェイド		
5月	一輪挿し		11月	活動なし		
6月	風鈴		12月	活動なし		
7月	苔玉用のお皿		1月	活動なし		
8月	文化祭バザー用の小皿		2月	ミニ植木鉢		
9月	活動なし		3月	活動なし		
職員担当フロアー：2F西						

音楽クラブ活動報告						
活動回数	22回	参加延人数	718名	平均参加人数	32名	担当：田村・井上
【活動報告】						
1. 2回/月						
2. 発声練習で、大きな声を出す事により、腹筋や口腔体操にもなり、自然に声を出すことが出来た。						
3. 馴染みの有る曲や、懐かしい曲等、様々な思い出の有る歌を皆さんと楽しく歌う事が出来た。						
【月別活動報告】						
月	内容		月	内容		
4月	今までの課題曲の復讐		10月	課題曲 「さくら貝の歌」		
5月	課題曲 「あの娘訪ねて」		11月	「湖畔の宿」グループ分けて唄う		
6月	課題曲 「アカシアの思い出」		12月	「湖畔の宿」録音して聞く		
7月	今までの課題曲の復讐		1月	「夕月みなと」前回の復習曲		
8月	課題曲「二人は若い」		2月	今までの課題曲の復習		
9月	今までの課題曲の復讐		3月	今までの課題曲の復習		
職員担当フロアー：3F西						

童謡クラブ活動報告						
活動回数	19回	参加延人数	313名	平均参加人数	16名	担当：萩原
【活動報告】						
1. 第1・第3金曜日に活動（6月より活動開始）						
2. ピアノ講師によるピアノ演奏で、童謡を中心とした歌を唄った。						
3. 良く歌った童謡や季節を感じていただく童謡等、ピアノの演奏で楽しい時間を過ごしていただけた。						
【月別活動報告】						
月	内容		月	内容		
4月			10月	季節の曲と手遊び歌		
5月			11月	秋の歌を中心に唄う		
6月	ピアノの演奏に合わせて歌を唄う		12月	クリスマス・お正月を中心とした曲の歌		
7月	季節の曲を取り入れた歌を唄う		1月	ピアノの演奏に合わせて歌を唄う		
8月	〃		2月	〃		
9月	秋の歌を中心に唄う		3月	ひな祭り・春を中心とした曲の歌		
職員担当フロアー：2F東						

フラサークル

・活動日は不定期で行った。自由参加で1回の活動で15名～20名程の参加でした。

上肢のリハビリを兼ねて、ハワイアン風の曲に合わせてハンドモーションの意味を説明しながら楽しく踊り、参加者にはレイを掛けてハワイに居る雰囲気を感じていただいた。

セラピー犬とのふれあい

・不定期 各ユニットに連れていき、実際にセラピー犬に触れて癒しを感じていただけた。

会うのを楽しみにして下さっている方もおり、セラピー犬との触れ合いで自然な笑顔を見る事が出来た。

クラブ活動費実績：1,336,813円

10. 年間行事実施報告

平成27年度 年間行事実施報告

日時	行事名	内容
4月25日	観桜会	4階テラスにてフラダンス、太鼓演奏、カラオケを楽しむ。
5月18日	運動会	地域交流室にて利用者様対象でユニットごとにチームに分け競技を行う。
7月11日	納涼祭	地域交流室、屋外スペースにてギター演奏、よさこい盆踊りを楽しむ
8月19日	夕涼み会	屋外スペースにて利用者、職員のふれいあいの場とし花火をして楽しむ
9月19日	敬老会	地域交流室にて式典。大正琴演奏を楽しむ。各ユニットで祝膳。
10月4日	敬老会	日の出町の敬老会に参加。
10月31日	文化祭	クラブ作品展示、演奏、落語、茶道を楽しむ。
11月7日	文化祭	日の出町の文化祭に参加。
12月19日	クリスマス会	地域交流室にて職員によるハンドベル、コーラス演奏、サプライズプレゼントを配り楽しむ。各ユニットで祝膳。
1月1～3日	初詣	八幡神社、熊川神社に初詣に行く。
1月2日	お正月祝膳	地域交流室にて式典。各ユニットで祝膳。
1月6日	餅つき大会	地域交流室にて餅つきを行い楽しむ。
2月3日	節分祭	各ユニットで豆まきを行い楽しむ。エイサー踊り、大正琴を楽しむ。各ユニットで祝膳。
3月2日	ひな祭り	地域交流室にて津軽三味線を聴き楽しむ。各ユニットで祝膳。

行事費実績：1,040,802円

11. 事務費・固定資産物品報告

事務費報告

○事務消耗品費：4,540,135円
 ○通信運搬費：666,094円
 ○手数料：5,340,802円
 ○土地・建物賃借料：52,016円
 ○渉外費：139,498円

○印刷製本費：513,080円
 ○広報費：937,860円
 ○保険料：8,067,318円
 ○租税公課：227,000円
 ○諸会費：231,600円

○修繕費：126,554円
 ○業務委託費：8,602,336円
 ○賃借料：3,466,239円
 ○保守料：2,813,980円
 ○雑費：1,210,772円

12. 事故報告・ヒヤリ・ハット報告

自治体への事故報告

	転倒	転落	その他	計
4月	1	0	0	1
5月	0	0	0	0
6月	2	0	0	2
7月	0	0	1	1
8月	3	0	0	3
9月	0	1	0	1
10月	0	1	1	2
11月	2	1	0	3
12月	0	0	0	0
1月	1	0	1	2
2月	1	0	0	1
3月	1	0	0	1
合計	11	3	3	17

アクシデント報告

	転倒・転落	誤飲・誤食	誤薬・未薬	その他	計
4月	1	1	0	0	2
5月	2	0	0	2	4
6月	2	1	2	1	6
7月	4	1	0	1	6
8月	5	1	2	5	13
9月	2	1	0	2	5
10月	3	0	1	1	5
11月	5	1	0	2	8
12月	2	0	0	2	4
1月	5	1	1	1	8
2月	5	0	1	0	6
3月	3	2	0	1	6
合計	39	9	7	18	73

ヒヤリハット報告

4月	5
5月	12
6月	15
7月	19
8月	16
9月	24
10月	23
11月	18
12月	22
1月	28
2月	23
3月	10
合計	215

13. 職員研修報告

【外部研修】

研修日	研修内容	参加者
5月14日	元ディズニーリゾート研修講師から学ぶ人を幸せにする福祉・介護の接遇マナー研修	伊沢 利恵 中村 幸永
5月15日	リハビリ補助	長田 信子
5月21日	新しい食品表示制度について	南枝 美希
6/2/・6/3	初任者研修Bコース	坂口連太郎
6月5日	個別機能訓練加算について学ぶ	小倉 達也
6月5日	経口維持加算では何をするか	南枝 美希
6月5日	平成27年度法改正について	中嶋 弘美
6/17・6/18	初任者研修Aコース	澤本ほのか
6月29日	介護報酬請求事務に関する研修会 基礎編	星野 早紀 井上 裕子
7月2日	多職種で臨む排泄サポート研修会	立石 翔平
7月9日	福祉用具を使った安全で質の高いケアとリスク管理の重要性	小倉 達也
7/27・8/24	高齢者福祉施設におけるサービスマナー研修会	渡邊梨代子
7/27～8/31	介護支援専門員 専門研修Ⅱ	中嶋 弘美
7月30日	第7回特定給食施設栄養管理講習会	南枝 美希
7月30日	「ケアマネジメントの質の向上ガイドライン」活用の為の研修会・続編	柴田 則子 中川 祥子
8月5日	送迎（福祉）車両安全運転講習会	薩美 昭夫 小杉 春海
8月14日	認知症ケアに関する研修会（基礎編）	岩崎 慎也
8月20日	特例入所の課題と社会貢献事業について	中嶋 弘美
8月21日	二次障害を作らないためのやさしい動作解介助・ポジショニングに関する研修会	池村 美子
8月20日	特例入所の課題と社会貢献事業について	中嶋 弘美
8月27日	7つのゼロへの実践報告	中嶋 弘美 篠崎 哲一
9月1日	福祉施設・事業所に求められる マイナンバー制度の理解と対応	小澤俊太郎 中川 祥子
9月4日	ストレスチェック実施者養成研修	高崎 理恵
9月14日	ショートステイ情報交換会	中嶋 弘美
9月18日	摂食嚥下障害患者への関わりの実際 栄養士との連携	南枝 美希
9月25日	人を生かすコミュニケーション	齋藤 澄子 中川 祥子
9月30日	今、ケアマネージャーとして考えるわが町の地域包括ケアシステム	
10月2日	食品衛生実務講習会A	南枝 美希
10月14日	栄養ケアマネジメントの実際と今後の診療報酬・ 介護報酬の動向について	南枝 美希
10月15日	平成27年度介護報酬改定加算を学ぶ 訪問介護・ショートステイサービスについて	中嶋 弘美
10月15日	施設・居宅介護支援事業所との情報・意見交換会	齋藤 澄子 中川 祥子
10月16日	高齢者の生活を守る成年後見制度	中川 祥子
10月22日	特別養護老人ホーム経営実態調査・介護職員賃金実態調査・デイサービスセンター実態調査結果報告	小澤 俊太郎
11月4日	施設における看取りケアの共通理解	高崎 理恵

11月13日	介護報酬事務に関する研修会	南枝 美希
11月14日	高齢者の生活を守る成年後見制度	齋藤 澄子
11月16日		
11月18日	ユニットケアフォローアップ研修	篠崎 哲一
12月4日	秋川特定給食研究会 全体会	南枝 美希
12月10日	褥瘡予防 ～本当に大切なこと～	高瀬 司 澤本ほのか
12月11日	高齢者施設のリスクマネジメント	小澤俊太郎
1/13・14・26	社会福祉法人・施設会計決算実務研修	小澤俊太郎
2月4日	秋川特定給食研究会 研修会	南枝 美希
2月5日	相談員の為の事故後の家族対応マニュアル	齋藤 澄子
2/24・2/25	平成27年度OJT推進研修	齋藤 澄子 篠崎 哲一
3月4日	特定給食協議会講演会	南枝 美希
3月8日	施設等ボランティアコーディネーター研修	篠崎 哲一
3月10日	介護サービス事業管理者高齢者権利擁護研修	齋藤 澄子
3月10日	障害者雇用給付品制度説明会	小澤俊太郎
3月11日	第2回福祉用具・新製品展示説明会	小倉 達也
3月28日	会計監査の事務 ～経営課題解決への貢献～	小澤俊太郎

【内部研修】

開催月	研修内容	講師
随時	新人職員研修	
4月	個人情報・プライバシー保護	田村副施設長
5月	ターミナルケア	中川施設長
6月	事故防止安全対策	池村リーダー
7月	感染症について	竹田ナース
8月	ケアプラン・記録	中嶋相談員
9月	身体拘束・人権擁護	篠崎介護主任
10月	虐待防止	吉澤副主任
11月	認知症理解	佐々木副施設長
12月	感染症について	高崎看護主任
1月	事故防止安全対策	佐野リーダー
2月	褥瘡予防	褥瘡委員会
3月	メンタルヘルス	中川施設長

開催月	ユニット単位対象 研修内容	担当者
5月	口腔ケア	中川施設長
7月	入浴介助	各ユニット
9月	食事介助	各ユニット
11月	排泄介助	排泄委員
1月	体位交換	小倉機能訓練指導員
3月	トランスファー	小倉機能訓練指導員

旅費・研修費実績：1,013,879円

14. ボランティア・慰問 受け入れ状況報告

平成 27 年度もボランティアや慰問の方々を地域資源として積極的に受け入れを行い、新たな方や、定期的に来てくださる方等確実に活動者が増えている。今年度より傾聴ボランティア、外出ボランティア、歌ボランティアで始められた方も、こちらでボランティアしている方のつながりでいっしょに、定期的な活動へと結びつけられた。また、今年度もできるだけ活動者が施設に来る際に部外者としてではなく、施設の利用者支援の1つとしての役割を担っている重要なものとして感じていただくよう、ボランティア保険加入の勧め、ボランティア用のネームタグやボランティアの活動ノートを作ること、活動されるボランティアの名前を連絡帳に書くなど行い、施設・職員側がボランティアの受け入れに積極的な姿勢を示すようこころがけた。来年度もボランティアのつながりを大事にして、施設全体でボランティアを必要な資源と考える姿勢を継続し、積極的な受け入れを行っていく。

地域交流室の開放については 27 年度も、数グループから問い合わせがあり、使用している。継続して開催されている日の出町ニュースの会に加えて、地域水彩画サークルの利用が始まり、年度半ばより利用者様もサークルに参加しはじめ、毎回数名利用者様の参加がみられ交流している。今後も使用されたい方の交流室の調整、受け入れを行い、できるだけ施設利用者様との交流の場としての機会も得られるように努めていく。

今年度より初めて近隣の幼稚園へ利用者様をお連れして、訪問した。少人数ではあったが、一緒に行かれた利用者様はとても笑顔になられ、喜びの表情が見られた。今後も、交流がはかれるように努めていく。

●昨年度の新規ボランティア活動登録者

辻本恵子様(傾聴)	黒崎英子様(喫茶手伝い)
森岡モトヨ様(傾聴)	菅原順子様(喫茶手伝い)
佐々木美恵様(傾聴)	盛岡茂子様(講談ボランティア)
星野明様(草刈、施設回り整備)	高橋慶子様(講談ボランティア)
安藤陽好様(カラオケ)	町田ミツ子様(傾聴ボランティア)
金子莉央様(夏ボラ)	森谷文子様(傾聴ボランティア)
中村ハイジ様(夏ボラ)	上坂幸子様(歌の付き添い)
山口ひろみ様(ピアノ)	

15. 消防訓練実施結果

平成 27 年度は、震災への対応も含めた避難訓練に重点をおく訓練を行った。また寝たきりの利用者についても積極的に取り組む意識が出てきている。職員全体に意識付けが出来た。また、BCP（事業継続計画）の改定および落雷時のマニュアルを作成した。

【27 年度訓練内容】

実施日	訓練種別	内容
4 月	総合訓練 (日勤帯想定)	地震・火災を想定した一連の訓練 総合訓練を重ね、実践に備えた
5 月	自衛消防訓練	秋川消防署主催の自衛消防審査会に参加するための訓練 非常に熱心に訓練に取り組んだ
6 月	自衛消防訓練	同上 消防審査会にて準優勝をとる事が出来た
7 月	総合訓練 (日勤帯想定)	地震・火災を想定した一連の訓練 日勤帯の訓練、指導を行った
8 月	総合訓練 (夜勤帯想定)	地震・火災を想定した一連の訓練 限られた人数しかいない事を想定し訓練を行った
9 月	総合訓練 (日勤帯想定)	地震・火災を想定した一連の訓練 緊急時の連絡方法の確認を行った
10 月	消火通報訓練	消火器及びスプリンクラー設備の取り扱い訓練・119 番通報要領訓練 秋川消防署職員による指導を受け訓練を行った
11 月	避難訓練 (日勤帯想定)	寝たきりの利用者を想定し、毛布・タオルケット等を使用した訓練及び応援体制の訓練 多くの職員が参加し、訓練に取り組んだ
12 月	消火通報訓練	消火器及びスプリンクラー設備の取扱い訓練・119 番通報要領訓練 参加者全員で消火器を使用した訓練を行った
1 月	避難訓練 (夜勤帯想定)	寝たきりの利用者を想定し、毛布・タオルケット等を使用した訓練及び応援体制の訓練 秋川消防署職員による指導を受け訓練を行った
2 月	防災ビデオ上映	災害についての意識付けを行う 休憩室にて上映を行い、多くの職員への意識付けが出来た
3 月	総合訓練 (夜勤帯想定)	地震・火災を想定した一連の訓練 限られた人数しかいない事を想定し訓練を行った

16. ショートステイ事業報告

ショートステイの受け入れに関して、今年度も土日・祝日問わず受け入れ態勢を取っていたが、中々伸びていないのが現状である。リピーターはいるも、他は医療ニーズが高くて、どここの施設も断られている利用者様のニーズはあるが、施設での受け入れも難しい状況。近場の方は夕食を召上ってからの帰宅支援もさせていただき、ご家族より好評な様子だが、ショートステイの競争率は高くなっている。

10 床のショート専門ユニットという事もあり、使い勝手は良いという声はあるも、近隣の特養や老健等多くあるため、利用者の確保は困難な状況は変わらずに見られる。そのため今後も施設の『売り』をアピールして、居宅介護支援事業所と連携を図っていきたいと思っている。

平成 27 年度稼働率

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
81%	86.%	54%	48%	63%	55%	68%	79%	76%	77%	71%	73%

介護報酬収入等年間実績 33,734,422 円